

## ②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

### 事例① 大人と遊ぼうデー【城ノ内コミュニティ協議会】

#### ★活動内容

城ノ内コミュニティ協議会では、毎年8月上旬に「大人と遊ぼうデー」を実施しています。大人と子どもが、オセロや将棋、手芸やゲームなどを一緒に楽しみ、野外では、流しそうめんや綿あめ、かき氷などで大変にぎわいます。

#### ★活動スケジュール・プロセス

##### ①5月中旬 第1回

こども委員会にて内容・スケジュールの検討。

##### ②6月上旬 第2回

こども委員会にて内容・スケジュール・各担当を決定。

##### ③7月上旬 第3回

こども委員会にて各担当で打合せ、準備リスト作成。

##### ④7月下旬

各担当準備完了。



#### ★活動の成果・課題

##### ・成果

大人から子どもまで幅広い世代の方に参加して頂くことができて、大いに親睦を深めることができた。

##### ・課題

若い男性の参加者（ボランティアも含め）が少なかった。これからどう促していくか。

#### ★苦勞した点・工夫した点

・野外担当の方が、暑くて大変だった。大型扇風機の用意が必要です。

・流しそうめんは、人数の制限をした方がよかった。



問合せ先：城ノ内コミュニティセンター（城ノ内コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-62-3222

## ②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

### 事例② 大宮大運動会【大宮ふるさと協議会】

#### ★活動内容

大宮小学校の児童と地域住民の合同の運動会（大宮大運動会）です。

参加者は、約 500 人で校庭のトラックの外周に各地区のテント（15 張）が張られ壮観です。大宮地区では、昭和 63 年（1988 年）から地域住民の地区運動会を開催してきました。平成 17 年に少子化に伴う大宮小学校の児童減少により、初めて地区住民との合同運動会を企画開催しました。それ以来毎年続いてまいりましたがコロナの影響で昨年今年と 2 年続けて中止となっています。

#### ★活動スケジュール・プロセス

- ①7 月 4 日に運動会実行委員会（25 人）を開催し、今後の日程等の協議。
- ②8 月 20 日・9 月 5 日・9 月 15 日に実行委員会（60 人）開催、9 月 20 日に前日準備。
- ③開催当日 8 時 25 分の開会式では、市長・県議会議員・地元の市議のあいさつがあり、各区長も来賓として出席いただいております。競技は、学校関係で 20 競技、地区関係で 8 競技を実施しました。競技中、児童は紅白に分けて、地域の方々は東西南北の 4 ブロックに分けてそれぞれ勝敗を競いました。
- ④午後 2 時 20 分からの閉会式では、成績発表・校長先生の講評がありました。



#### ★活動の成果・課題

- ①開催当日は、雨の予報で開催も危ぶまれたが 2 種類用意した中の晴天用のプログラムを使用し時間通り進行し、けが人もなく無事終了しました。
- ②昼休み時間には、恒例の大抽選会を実施し盛り上がりを見せていました。
- ③日頃、なかなか顔を合わせない地域の方々が団体競技等に参加して和気あいあいと楽しんでいました。（特に綱引き・紅白玉入れ）
- ④あらかじめ雨天用のプログラムが用意されており良かった。
- ⑤ボランティアの中学生が運営を手伝ってくれ、非常に助かった。
- ⑥来場者の駐車場の確保が難しい。（路上駐車が数台あった）。

#### ★苦勞した点・工夫した点

- ①開催日が午後雨天の予報だったので 2 つのプログラム（晴天・雨天）を作成し対処しました。（当日は、降雨が無かったため晴天用を使用 ※雨天用は、午後 1 時頃終了予定）
- ②暑さ・熱中症対策として水分補給タイムを設けました。
- ③毎年のことですが地区対抗のリレーの選手（住民）がなかなか集まらない。



問合せ先：大宮コミュニティセンター（大宮ふるさと協議会事務局）TEL：0297-64-8149

## ②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

### 事例③ サマーキャンプ【川原代ふれあい協議会】

#### ★活動内容

夏休みに、学校ではなかなか学べないような遊びやボランティア、地域行事の体験を通して、子どもたちの自主性や道徳心、連帯感を育成していく活動。

#### ★活動スケジュール・プロセス

協議会構成団体である川原代ブラザーズが中心となり夏休みに1泊2日のキャンプを行う。7月にキャンプで行う内容を打ち合わせし、キャンプ前日までに買い出しを行う。

小学校と協議会広報紙より参加者の募集を行う。参加は小学生全学年、うち宿泊は原則4年生以上。

8月土曜日午後1時にコミセンに集合し、開所式を行う。1年生から6年生の混合班の活動グループと宿泊テントグループに分ける。

1日目は、スポーツゴミ拾い大会・飯ごう炊飯によるカレーライスづくり・テントづくり（多目的ホール）・キャンプファイヤー・花火大会・肝試し大会を行い、消灯。

2日目は6時起床、ラジオ体操・朝食ホットドッグづくり・コミセン室内外清掃・思い出のビリビリちぎり絵作成・流しそうめん・すいか割り大会・かき氷・片付け・感想発表・閉所式。子どもたちに盛りだくさんの体験をしてもらう。

#### ★活動の成果・課題

1年生から6年生の混合班で活動を行うため、思いやり、自主性、協調性やリーダーシップを学ぶことが出来る。子どもたちはさまざまな活動に一生懸命取り組み、有意義な楽しい夏休みを過ごして思い出を作っている。

#### ★苦勞した点・工夫した点

夏の暑い時期に活動を行うので、けがや子どもたちの体調に気を付ける。

集団生活を行うので、規律を守って行動してもらうようにする。



問合せ先：川原代コミュニティセンター（川原代ふれあい協議会事務局）TEL：0297-66-7263

## ②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

### 事例④ 西コミ☆子どもまつり【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

#### ★活動内容

小学生，未就学児を対象にしたお祭り型レクリエーション。龍ヶ崎西小体育館を借用して会場に利用。

午前中は龍ヶ崎西小龍神太鼓，愛宕中吹奏楽部の演奏会。

午後は各種露店（射的，風船釣り，スーパーボールすくい等）を展開し，遊びの場とする。体育館外側には模擬店（カレー，豚汁，混ぜご飯，飲み物等）を出し，廉価で販売。

#### ★活動スケジュール・プロセス

- ①企画書，事前準備マニュアル，当日運営マニュアルの作成（6カ月前）
- ②龍ヶ崎西小体育館借用と龍神太鼓出演の依頼。（5カ月前）
- ③愛宕中吹奏楽部へ出演の依頼。（5カ月前）
- ④露店用具，景品，賞品，参加賞等の品決めと購入手配。（4カ月前）
- ⑤会場設定図面作成。（3カ月前）
- ⑥大会主催側に必要な役割の整理と担当者への割り振り。（2カ月前まで）
- ⑦会場設営，模擬店準備。（前日）



#### ★活動の成果・課題

- ①毎年 500 人を超える参加者があり，大盛況である。
- ②地域の子どもたちのみならず，保護者たちの楽しみになっている。

#### ★苦労した点・工夫した点

内容がマンネリ化しないように，毎年出し物を少しずつ変えていくような工夫が必要。



問合せ先：龍ヶ崎西コミュニティセンター（龍ヶ崎西コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-0624

## ②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

### 事例⑤ ふれあい学習【駒馬台地域ひなっこ協議会】

#### ★活動内容

老若男女を問わず誰もが知っている昔話の「桃太郎」を、講師である神木氏より多方面からわかりやすくお話をさせていただき、子どもたちにもわかりやすく人生論を学ぶ講座である。

#### ★活動スケジュール・プロセス

- ①1月15日 駒馬台小学校にて、開催時間の協議を行う。
- ②1月18日 文化体育委員会にて開催までのスケジュールの確認を行う。
- ③1月21日 駒馬台小学校においてアニメートの出演調整を行う。
- ④2月15日 文化体育委員会にて備品や担当の最終打ち合わせを行う。
- ⑤2月20日 午前8時30分より、会場準備を行う。
- ⑥2月20日 午前10時開演



#### ★活動の成果・課題

- ①桃太郎の話の発祥は岡山を含めて5カ所あり、それぞれの地がお互い協力して普及活動をしている事や、従者も、きじ、さる、いぬ以外にも諸説ある事など、大人にとっても新しい発見があった。
- ②視点を変えて物事を見ることで柔軟な発想が生まれて、人生をより楽しく生きるアイデアを貰えた。
- ③子どもたちと一緒に活動することで、世代を超えた地域住民のコミュニケーションの形成に寄与したと思う。

#### ★苦勞した点・工夫した点

- ①平日学校での開催なので、授業の調整に苦慮した。
- ②子どもから大人まで楽しめる内容を考えて今回の講師選定を行った。
- ③地域住民の参加者を増やすため参観日との調整を行ったが、カリキュラムとの関係で同日開催はかなわなかった。



問合せ先：駒馬台コミュニティセンター（駒馬台地域ひなっこ協議会事務局）TEL：0297-65-4040

## ②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

### 事例⑥ まちなかハロウィン【馴馬台地域ひなっこ協議会】

#### ★活動内容

参加者が仮装を楽しみ、地域散策の上、協力家庭へ訪問しお菓子をもらうハロウィンイベント。本イベントを通して地域住民の交流と街の活気を得るものである。

#### ★活動スケジュール・プロセス

- ①10月2日 文化体育子ども委員会にて開催までのスケジュールの確認を行う。
- ②10月3日～17日 協力いただける家庭の調整を実施。趣旨を説明し、参加者が訪問する際にお菓子の配布などを実施いただける方を探した。
- ③10月5日～23日 参加者募集の広報を実施。小学校と協力し全生徒への申込書を配布（15日を締切として回収）、地域住民へは回覧にて、23日までに事務局へ参加申し込みをお願いする連絡を実施した。
- ④10月18日 当日の散策地図、各委員の役務調整、当日タイムスケジュールの確認を行う。
- ⑤10月21日 配布するお菓子、消毒機器、装飾品の準備。
- ⑥10月29日 協力家庭への最終確認、当日段取り説明。
- ⑦10月30日 午前9時協力家庭へ物品の運び込み。午後1時委員集合し段取りの最終確認の上、午後2時イベント開始。

#### ★活動の成果・課題

- ①当日の参加者は約170人（実施者除く）あり、大変盛況に行う事が出来た。
- ②参加した子どもたちは訪問する家庭を探すことが宝探しのように楽しむことができた。また、協力してくれた家庭も多くの子どもたちと触れ合う機会となった。本イベントは地域の方と交流する機会となり、コミュニケーションの形成に寄与したと思う。
- ③想定した時間よりも早く回る参加者が多く、散策範囲の拡大など検討していく必要性を感じた。

#### ★苦勞した点・工夫した点

- ①訪問できる家庭が多い事でより楽しめると考え、協力いただける家庭を数多く集めた。また、近隣で集まりすぎないように、散策範囲で均等に訪問できる家庭を配備できるようにした。
- ②ハロウィンイベントであるため、多くのお菓子を準備し、各協力いただける家庭に対し、参加者全員にいきわたるよう数量を準備した。
- ③事前申込制としたが、当日参加者も受け入れる体制を取り、広く参加できるイベントとして開催する方法を取った。



問合せ先：馴馬台コミュニティセンター（馴馬台地域ひなっこ協議会事務局）TEL：0297-65-4040

## ②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

### 事例⑦ 地域交流「昔遊び」【馴柴まちづくり協議会】

#### ★活動内容

- ・地域のおじいちゃん、おばあちゃんと馴柴小学校1年生、2年生が「昔遊び」を通じて地域交流および健全育成目的で始めました。
- ・昔遊び  
1年生 折紙、羽根つき  
2年生 けん玉、輪投げ

#### ★活動スケジュール・プロセス

- ・令和元年3月18日 健康・福祉委員長ほか委員と馴柴小学校で「昔遊び」の日程調整決定。
- ・10月10日 自治会、長寿会、民生委員児童委員へ「昔遊び」協力依頼の案内配布。
- ・11月15日 委員会で「昔遊び」計画表による最終確認。
- ・11月26日（1年生）および28日（2年生）に「昔遊び」を開催。

\*開催前に関係者に役割分担、時間割等を周知し実施。



#### ★活動の成果・課題

- ・年代を超えた交流が深められ12年目になりました。
- ・折紙・羽根つき・けん玉・輪投げについて非常に興味を持ち、家でもやってみようという人が増えました。
- ・児童たちからのお礼の手紙を読むのを毎回楽しみにしています。

#### ★苦勞した点・工夫した点

- ・以前、竹とんぼ製作は通常、竹を加工するがその際にナイフを使用するため安全確保が難しかった。そこで、ナイフを使わない竹とんぼ製作に取り組んだ。羽根を牛乳パックで棒は焼き鳥のくし棒に変えて製作することで安全確保を図った。また、羽根の折る角度で飛ぶ確率が左右され苦勞した。
- ・今まで行ってきた以外の昔遊びも検討し、児童が体験できるようにしていきたい。



問合せ先：馴柴コミュニティセンター（馴柴まちづくり協議会事務局）TEL：0297-66-7214

## ②子どもに関する活動（地域コミュニティ協議会）

### 事例⑧ 登下校の見守り活動【各地域コミュニティ協議会】

#### ★活動内容

小学生の安心安全な登下校のため、地域住民による見守り活動が行われています。通学路の危険な箇所（交差点など）に立ち、見守りをしたり、通学班に付き添う形などで行う方法はいろいろです。



（写真：龍ヶ崎小学校）



（写真：大宮小学校）

## ②子どもに関する活動（住民自治組織）

### 事例⑨ 子宝育成支援補助金制度【高砂区町会】

#### ★活動内容

町会内で第四子が誕生された場合は子宝育成補助金制度として町会より補助金3万円と記念品(アルバム), 上のお子さんにお菓子の詰め合わせとジュースを贈呈。(第四子以上を対象とするので第五子以上の誕生の場合も同様)

#### ★活動スケジュール・プロセス

- ・少子化が進む現状を子どもたちは町会内だけではなく、市および国の宝と思われるので町会内で少しでも支援して行ければと総会で子宝育成支援補助金制度を制定、町会規約として実施。
- ・住民には回覧板で周知して町会役員同席の上、公民館で区長が贈呈式を実施。

#### ★活動の成果・課題

- ・少子化傾向の現状で、町会全体で子育てを支援。第四子誕生宅では「大変感激した」と感謝された。
- ・当町会の子宝育成支援補助金制度により町会内で子育て世代が住み良い町と感じられ永住者としなるよう援助(現在の制度はアパート・借家問わず補助金制度の対象)

#### ★苦勞した点・工夫した点

第四子の誕生により子宝育成支援補助金制度を回覧板で周知し贈呈式を実施後に一部の町会員より『なぜ第四子からなのか？遡って第三子からでも良いのでは』ほか『子どもいない家庭もある』等の意見もありましたが多くの住民が賛同および賛辞してくれましたので、町会役員一同は子宝育成支援補助金制度について良い制度と自負しています。